

運営推進会議 議事録

事業所名	地域密着型通所介護 レコードブック川越大手町
担当者	管理者 古嶋 洋基
所在地	川越市大手町8-6カーサボスコ1階T-103
開催日時	令和4年10月20日 木曜日 (書面開催)
開催場所	レコードブック川越大手町
出席者内訳	新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止の為、書面開催とさせて頂きました。 (但し当職員:小椋、福原、加納 計3名 情報共有)
議事録送付先	ご利用者代表 上野 富美子様 ご家族 上野 幸雄様 地域包括支援センター キングス・ガーデン 安原 和美 様 川越市自治会 第四支会 山崎 耕一郎 様 川越市民生委員 水村 富美子 様
当事業所の運営状況	令和3年9月30日現在 利用者登録人数 101名(男性34名、女性64名) 利用介護度 事業対象者10名、要支援1 21名、要支援2 13名 要介護1 42名、要介護2 8名、要介護3 4名、要介護4 2名、要介護5 1名 平均年齢 80.5歳
行事報告	集団運動 月間テーマ実績 ご利用者の多くが悩んでいることや元気で安全に生活していく為の予防知識を月間テーマに掲げた運動プログラムと紙芝居による動機づけを行います。 10月 腰の痛みと上手に付き合しましょう 1月 尿失禁を防止しましょう 11月 外出を楽しんで閉じこもりを防止しましょう 2月 ストレスと上手に付き合しましょう 12月 膝の痛みと上手に付き合しましょう 3月 からだと会話しましょう
主な議題	介護施設における感染症対策
実施内容と説明	※介護施設における感染症対策について社内にて勉強会を行った ・感染症とは? 「うつる」病気である 広がる可能性があり、正しく知っている必要がある。 誤解するといつの間にかうつってしまう。 もう一つの誤解は、うつらないものをうつると考えてしまう。 ヒトが動くことによって広がる病気である ⇒ 現代人にとって宿命ともいえる。

正しく知るとは？

「その感染症が何か？」「感染経路は何か？」「感染経路の遮断方法は？」

・高齢介護施設・社会福祉施設における感染対策実施の意義

個々の安全・安心の確保 ⇒ 感染した場合……

・命を守る→→生命の危機

・生活を守る→→行動範囲制限と身体機能の低下

・心を守る→→隔離・差別隔離・差別・疎外感

《重要》基礎予防 ⇒ 免疫を高める

《NG》

・栄養バランスの乱れ ・暴飲暴食 ・睡眠不足

・不規則な生活 ・ストレス・免疫低下と関連が深い病気

・感染症 ・肌の炎症 ・歯周病 ・ガンなど

高齢者介護施設で注意すべき感染症

・新型コロナウイルス感染症 ・インフルエンザ ・腸管出血性大腸菌感染症(O-157)

・感染性胃腸炎 ・ノロウイルス感染症 ・ロタウイルス感染症 ・疥癬 ・結核

・レジオネラ肺炎 ・薬剤耐性菌感染症

高齢者介護施設における感染対策マニュアルより

Q:新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化しやすいのはどんな人ですか？

☞重症化しやすいのは、高齢者と基礎疾患がある方 一部の妊娠後期の方

重症化リスクとなる基礎疾患は、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧
心血管疾患、肥満、喫煙

Q:施設内クラスター(感染伝播)はなぜ起こる？

1. COVID-19 が感染症だから うつる・拡がる

2. COVID-19 が厄介な感染症だから無症状者もうつす潜伏期間が普通の風邪に見える

3. 平時の感染予防策が行われていないから施設全体での教育の機会がない

4. 日常的な感染予防対策が必要だという意識が低い

新型コロナウイルス感染症は「〇〇さん陽性です」の時点でかなり拡がっていることが多い

・PCR陰性で安心してしまっている

・〇〇さん陽性の背景を丁寧に見ていないので隠れ新型コロナが拡がる

・福祉施設・高齢介護施設の感染対策の「感染を拡げない」実践が必要。

今までの新型コロナ感染症対策

① 感染を持ち込まない ② 感染を拡げない ③ 死亡者を出さない

これからの感染対策

① 個人予防行動 ②施設内での標準予防策・知識を深め実践につなぐ。

- ・入所時のリスク評価の徹底
 - ・入所時の持ち込み感染を可能な限り抑止する
 - ・経過観察症状を自覚した時点、発症日を自覚していないケースもあるので潜伏期間を考慮する
高齢者介護施設の場合クラスターが起こる原因
- ※しっかりマスクができないから ※集まることが多いから

職員個人の予防行動

※毎日自分の健康観察をする 体温、咽頭痛、咳声枯れ、頭痛、倦怠感下痢・嘔吐など
⇒ もし何等かの症状があり、自分に思い当たる行動があるなら、勤務を休み経過を見る。
または検査を受ける。

※平時からのサージカルマスクの正しい着用 正しいサージカルマスクの着用とは

- ✓顔のサイズに合っている
- ✓鼻と口が追われている
- ✓顔とマスクの間に隙間がない

※マスク着用のタイミングが適切である

- ✓ヒトと会話をするとき
- ✓利用者に接する時

感染のきっかけ

- ・職員が感染して持ち込む
- ・新規入所者が持ち込む

これは防げないのか？

職員が感染する要因は？

- ・家庭内
- ・自分時間での感染
- ・コンサート
- ・飲み会等

⇒職員が感染しないということは、もはや無理・・・

自分が感染しているとは思わない、でも誰でも感染する可能性はある

職員 ⇒ 個人の予防行動の実践(継続)

新規入所者 ⇒ 入所時のリスク評価 ⇒ 新規入所者のリスク評価の実施により持ち込みを予防する

都度リスク評価の実施により職員を守る

- 体温
- 咽頭痛(咽頭違和感)
- 頭痛
- 咳
- 倦怠感
- 呼吸のしにくさ
- 下痢・嘔吐
- 味覚・嗅覚異常の有無
- その他

同居家族(同居人)

- ・罹患有無
- ・時期
- ・隔離期間

万が一感染(潜伏期間中)していても感染を上げないためには

- ☑ マスク着用
- ☑ 換気
- ☑ そのほか

	<p>症状がある、でも抗原は陰性だから感染していない、の判断は「×」 自己判断</p> <p>② 症状がある、抗原検査「陽性」だから感染と判断○ ② 症状がない、抗原検査「陰性」だから感染していない△ ☞ 数日前に接触したヒトに陽性者がいる場合、要観察が必要</p> <p>③症状がある、抗原検査「陰性」だから感染していない×</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症は移る病気、だから職員は正しい知識と正しい予防行動を身に付けておく必要がある ・新型コロナウイルス感染症の感染経路は、飛沫・接触・マイクロ飛沫感染であるため、それらの感染経路の遮断方法を知って実践する ・入所者が陽性となるケースは職員からの持ち込みが発端となるが多いため、職員の日々の予防行動の是非が問われる ・通所型デイサービスの感染予防は、実施時の利用者の体調確認とスタッフの予防行動が重要 ・職員の予防行動として、マスクのつけ方、手指の消毒が重要 ・新型コロナウイルス感染症に限らず、日ごろから標準予防策を実践しておく必要がある ・そのための職員研修、および実践の確認を怠らない
<p>要望、意見 及び改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防を徹底する中で、スタッフ個人の予防行動において、新型コロナ対策で出口が未だ見えない中、恒久的に対策を継続させることは大変だが、その意識をもって行動することはとても重要。 ・今までのコロナ禍における約3年間の経緯を経て、メディアを含めた専門家から、特に重要とされる予防対策は、《換気対策》 《飛沫感染リスクの対策》 《接触感染リスクの対策》 これを踏まえ、施設に合わせた対策を取ることが重要。
<p>出席者からの 評価</p>	<p>書面開催の為、資料配布のみと致します。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>介護施設での感染を防ぐための活動と対策を継続させる</p>
<p>次回の開催 予定</p>	<p>日時:令和5年4月吉日 場所:レコードブック川越大手町 店舗内にて</p>